日管連

第13回全国青年部会開く
活動の活性化めざす

日本配管工事業団体連合会（日管連）傘下の各地区団体青年部会で組織する日管連全国青年部会（部会長薮下保之氏＝中国団体）の第13回全国青年部会が10月18日、広島県広島市のオリエンタルホテル広島で開催された。

薮下保之部会長が挨拶

今年は中国団体青年部会が開催担当幹事となり、北海道、東北、関東、中部、関西、九州の7団体青年部会からオブザーバーなどを含めて約80名が参集し、青年部会活動の活性化への方策を模索した。

全体会議に先立ち、各地区の部会長による会議が行われ、今後のスケジュールや参加人数の打ち合わせなどを確認し、第一部の勉強会では安部友裕氏（HAKIpro社長）を講師に「ことばが紡ぐ組織の未来」をテーマに講演会を開催。元プロ野球選手の安部氏は健康経営と組織コーチング、企業に通ずる言葉の重要性や組織の在り方などを講演し、参加者は熱心に耳を傾けていた。

第13回全国青年部会

記念撮影の後、懇親会を催した。中国団体青年部会の坂本貴之副部長の開会挨拶に続き、日管連青年部会の薮下部会長が「われわれ日管連青年部会と全管連青年部が一丸となって業界のイメージアップを目指すため、任天堂のスーパーマリオに着目してコラボが実現できるよう協議している。時間はかかるが両団体が意見交換をしながら企画を練り、設備業界の人手不足を解消できるよう取り組んでいきたい」と抱負を述べ、「会員として横の繋がりを大切にし、困ったときに相談できる関係を築き、明るい配管工事業の未来を皆さんと作っていきたい」と意欲を示した。

今後の健闘を誓い乾杯

来賓からは中国配管工事業協同組合の花登義樹理事長が期待を込めて祝辞を述べ、関東配管工事業協同組合の山田栄二顧問の発声で乾杯し和やかに交歓した。各地区の近況報告と出席者が紹介され、新たな議案提起なども出し合い親睦を深めた。

00戸減）で、前月比では4000戸増（0・5%増）だった。着工床面積は8・9%減の503万9000平方㍍（4カ月連続減）。

内訳をみると、持家は6・6%減の1万959戸で32カ月連続減、公的資金分は16・8%減の1547戸で34カ月連続減。

貸家は1・4%減の2万8939戸で2カ月ぶり減。うち民間資金分は1・3%減の2万731戸で2カ月ぶり減、公

秋期

西岡利明会長が挨拶

アカギの配管支
株式会社
アカギ
☎03-3552-7
本社東京・支店全国

土木建機5.7%増と堅調

4～9月リース取扱高

リース事業協会がまとめた2024年度上半期（4～9月）のリース取扱高（額）は2兆3508億円、前年同期比10・7%増、半期ベースでは22年度下期から連続して増加となった。

管工事に関連する油圧ショベル・ミニショベル・土木用ポンプを含む「土木建設機械」は6722億円で前年比5・7%増と堅調に推移した。一方、産業機械1709億円、11・9%減、工作機械307億円、14・0%減といずれも低迷した。

このほか、情報通信機器（14・0%増）、輸送用機器（20・3%増）、商業及びサービス業用機器（15・3%増）がそれぞれ2ケタ増を示したほか、事務用機器（5・4%増）も堅調。医療機器（5・7%減）は振るわなかった。

それによると、原材料費、人件費などの増加による販売・受注価格への転嫁状況について「価格引き上げ（転嫁）を実現した」割合は約49・9%となった。また、「価格引き上げの交渉中」「これから価格引き上げの交渉を行う」は合わせて25%となった。

転嫁率は「10～30%未満」が39・8%と最も高く、次いで「10%未満」の38・3%。価格転嫁が実現できたのは約半数にとどまり、さらにそのうちの約8割の事業所は30%未満の転嫁しかできていない。

転嫁内容は「原材料費分の転嫁を行った（行う予定）」が2年連続して減少しているものの約75%と最も高い。なお、昨年と比べ「人件費引き上げ分の転嫁を行った（行う予定）」とする事業所の割合が9・5%（2年前と比べると16・6%）増加している。

一方、賃金改定の実施状況については「引き上げた」が60・6%、「7月以降引き上げ予定」が12・6%と合わせて70%超が賃金引き上げ事業所となっている。